

ビワの台木養成に関する研究

第1報 台木用実生のゴマイロハンテン病対策について

河瀬憲次・*道野義博

(果樹試験場口之津支場・*長崎県園芸農業協同組合連合会)

KAWASE, K. and MICHINO, Y.

Studies on the Propagation of Rootstock of Loquat.

(I) On the Protection against *Entomosporium eriobotryae*.

ビワのつぎ木繁殖は容易であるが台木養成上問題があるため、産地においては優良苗木の確保がままならず、現に新植、改植に支障をきたしている。一方、苗木生産地においてもこの対策解明の要請が強い。これらの実情に対応して検討を重ねた結果、2、3の知見を得たのでその概要を報告する。

ビワ実生の生育を阻害している最大の原因はゴマイロハンテン病(別名ゴマハガレ病 *Entomosporium eriobotryae* Takimoto)によることは明らかである。したがって本病対策を中心に検討をすすめた。

1) 被覆処理の効果

本病は一般に秋から春にかけて多発しやすいから、被覆処理を行なった結果、第1表に示すように、とくにビニール被覆(トンネル)区は効果的であった。しかし10月には発病が認められたことから、高温障害に注意して早期被覆することが望ましい。

2) 台木の種類による生育とり病の状況

茂木、田中、白肉種(品種名不詳)および野生種3種の6区について、ファイロンハウス内でとり播きし、翌年4月ほ場に移動して養成し、生育状況とゴマイロハンテン病の被害について、つぎ木前の2月28日に調査した(第2表)。その結果発病は野生種より栽培種のほうが少ない傾向にあった。なお、生育は栽培種実生が良好であったが、野生種でもつぎ木に適した太さには達していた。これは養成期前半をハウス内で経過させた効果によるものと考えられる。

3) 薬剤による防除効果

ゴマイロハンテン病の薬剤が見出されていないために台木養成が困難であることから、再三にわたりスクリーニングを行なった。その結果、第3表に示

すとおり1972年6月に実施した試験で、ベノミルとチオファナーネートの両水和剤に、顕著な防除効果のあることを見出すことができた。なお、散布期間および濃度についてはさらに検討を加えたい。

第1表 ビワの台木用実生に対するゴマイロハンテン病の被害と冬季被覆処理による効果

試験区	供試数	伸長量 cm	調査葉数	り病程度				幹部状況		
				-	±	+	++	正常	頂芽枯死	枯死
ビニール被覆区	15	7.1	70	58.6	11.4	11.4	18.6	93.3	6.7	0
わら被覆区	15	6.9	53	30.2	3.8	13.2	52.8	60.0	33.3	6.7
対照区	14	5.4	55	0	3.6	12.7	83.6	7.1	28.6	64.3

注) 1971年7月5日は種、11月19日被覆、1972年2月28日調査

第2表 ビワの台木別実生の生育とゴマイロハンテン病被害

実生名	供試数	幹径 mm	樹高 cm	着葉数	ゴマイロハンテン病	
					り病葉数	り病率 %
田中	35	15.5	85.0	34.3	11.0	32.0
茂木	35	14.0	73.7	40.0	14.7	36.8
白肉種	35	12.9	70.4	43.0	9.3	21.7
野生種(A)	32	13.4	60.0	27.7	13.5	48.8
野生種(B)	20	12.6	52.5	25.3	12.3	48.6
野生種(C)	32	9.6	40.6	18.3	7.5	41.1

注) 1. 1970年6~7月ハウス内箱まき
2. 1971年4月苗は定植
3. 1972年2月28日調査
4. 野生種: (A) 佐賀県相知町産、(B) 福岡県浮羽町産、(C) 久留米市古川町産

第3表 ビワの台木用実生に対するゴマイロハンテン病防除効果

薬剤名	濃度	基部葉		全葉		り病葉当 病斑数	り病 葉率
		葉数	1葉当 病斑数	葉数	1葉当 病斑数		
ベノミル水和剤	2000倍	40	1.8	81	2.3	4.1	56.8
チオファナーネト水和剤	500	40	4.7	74	2.9	6.5	44.6
グイホルタン水和剤	600	40	14.8	73	10.4	14.4	72.6
ボルドー液	6-6式	40	5.3	98	16.9	22.7	74.5
ポリオキシ水和剤	500	40	46.1	93	34.8	43.7	79.6
マンゼブ水和剤	400	40	55.1	55	41.1	49.2	83.6
無散	布	40	55.9	61	46.3	65.6	70.5

注) 1. 散布期日: 第1回6月23日、第2回7月8日
2. 調査期日: 7月17日
3. 展着剤: 5000倍加用
4. 試験区: 茂木実生各10本、基部葉は下から4葉を調査